

熊本県立天草高等学校 平成26年度学校評価表

1 学校教育目標
 「平成26年度県立学校における教育指導の重点」及び「平成26年度人権教育取組の方向」を基盤に据え、本校の教育スローガン「求学志成」及び、三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、個性豊かな人材の育成と規律ある活気溢れる学校づくりを目指し、次の4項目を目標とする。

- 2 本年度の重点目標**
- (1) 自主的精神を高め、自らを律する態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力向上を図るとともに、生徒自ら問題を解決する力の育成に努める。
 - (2) 基本的生活習慣の確立と安全教育の徹底を図り、豊かな人間性の育成に努める。
 - (3) 心身の健康、体力の向上を図るとともに、創造性や感性を育む体験活動の推進に努める。
 - (4) 地域の拠点校として、地域に開かれた学校づくりに努め、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応える教育活動を進める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「教育の日」及び土曜日を活用して、保護者や地域の方々に、授業や発表会などを積極的に公開する。 近隣の小学・中学・高校にも案内し、連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が立案し、年間2回以上の公開授業等を実施する。 教務部が立案し、体験入学を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 6月と11月に公開授業期間を設け、保護者や近隣小学校・中学校・高校に案内し、2回とも約30人の方が来校された。今年度は普通の授業を公開するだけだったので、今後はテーマを設けて授業を公開し、授業力向上に繋げていきたい。 今年度は中学生360名が参加した(昨年度とほぼ同数)。中学生や保護者からのアンケートから概ね好評だったが、後半部分の内容に課題が残った。
		広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新・充実を図る。 生徒の活動の様子を、学区内中学生や地域の方々に積極的に情報発信する。 中学校を訪問して、学校紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報図書部が立案し、学校HPの更新頻度を高める。 情報図書部が立案し、学校新聞「潮風」を月1回発行し、中学校等へ配付する。 情報図書部が中心となり、学校紹介DVDを作成し、広報に用いる。 アンケートを実施し、広報活動に反映させる 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度より新しいHPシステムであるCMSを導入したことにより従来の情報図書部PCだけでなく校務用PCからも更新が出来るようになり更新頻度を上げることが出来た。 潮風は予定通り発行することが出来た。 学校紹介パンフレットとDVDを予定通り作成することが出来た。 体験入学で実施したアンケートの結果、要望の多かった部活動の活躍を積極的に広報した。また同じく要望の多かったメール配信サービスも学年単位での利用が進み一層定着した。合格者招集日でも実施する予定である。
		学校評議員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回の学校評議員会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教頭が立案し、学期に1回実施する。 地域の方々に本校の教育活動を紹介し、有意義な意見交換が出来る環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> 第1回は9月3日、第2回は2月18日に実施し、いじめ等に対する適切な対応やインターネット等に関する本校のルールづくり、特別支援を必要とする生徒への継続的な指導のあり方、大学入試制度改革に伴う本校の取組等について貴重なご意見をいただき情報交換することができた。
		育友会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 育友会総会や学年別保護者懇談会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総務部及び各学年が立案し、学校全体で取り組む。 メール配信サービス加入率を向上させ、積極的に学校行事への参加を促す。 		<ul style="list-style-type: none"> 育友会総会を始めとする学校行事、各学年の進路講演会等、育友会と連携を図り積極的活動ができた。生徒数減少による今後の地区活動に配慮が必要。 情報図書部との協力により、メール配信サービス登録が751名(前年+314名)と増加し、各行事連絡で効果を高めた。
学 校 経 営	安全管理の取組	不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施する職員研修に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事ゼロ委員会が中心となり職員研修を実施する。 ロッカー及び机の引き出しの施錠を行う。 文書セキュアを活用し、情報の管理を徹底する。 毎月、全職員でセルフチェックを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間8回、不祥事ゼロ委員会を中心に職員研修を実施し、啓発プリントを用いて情報を共有することで職員ひとり一人が当事者意識をもつことができた。 情報図書部を中心にセキュリティ対策プリントを作成し、ネットトラブルの危険性を周知したり、効率的な校務処理に取り組んだ。しかし、個人により情報機器を使う技能に差があり、全員がICTを活用するレベルまでには達していない。 毎月、全職員でセルフチェックシートに記入することで自分の行動や意識を振り返り、自己管理につながった。
	教育環境の整備	学習環境の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主的な学習環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年部が企画し、土日祝日に学校を開放する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、計画通りに、実施することができた。自学室の活用も含め、学習環境の整備および定着には必要である。
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 予習の徹底と天高チャレンジ1500min(1週間の学習時間)の家庭学習を促させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回の宅習時間調査を行い、学年ごとに対策を講じる。 保護者に結果を知らせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 6月と10月に宅習時間調査を実施した。集計結果をまとめ、職員に問題点やこれからの取組について周知することができた。学年会やホームルームでも話題に挙げてもらった。来年度は、宅習時間の量だけでなく質も上げていく必要がある。
		3年間を見通した指導計画	<ul style="list-style-type: none"> 授業担当者会を実施し、計画的な学習を進める。 生徒の実態を把握して計画の改善を随時行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に授業担当者会を学年ごとに実施し、進捗状況の確認と意見交換を行う。 学期末に教科書の進捗状況を調査する。 学期ごとの考査・模試、各種調査、授業評価に基づいて検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> 4月に全学年、授業担当者会を実施し、年間指導計画や生徒の状況を共有することができた。 今年度は定期的に教科書の進捗状況をチェックすることができなかったため、来年度は学期ごとに調査する。 1学期末および2学期末に実施した授業改善アンケートの結果を受けて、職員に課題を周知することができた。 定期考査や模試の結果を受けて、クラス替えができ

		習熟度別学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> 国数英それぞれ学習到達度に応じた学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに到達度を確認しクラス替えを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 各学年でクラス替えの方針を工夫することができたので、来年度は教科会を利用して、学年間で共有していきたい。
	教員の指導力の向上	学習指導法等の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> 教科で年間2回以上の研究授業を行う 教材研究の質の向上を図る。 作問力の向上を図る。 分析力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ、授業に臨む。 教科内・教科間を超えて、切磋琢磨しながら授業力の向上を図る。 授業に入る前の検討会を実施する。 生徒には、具体的にどう努力すべきかを明確に提示する。 定期的に、教科会で検討する。 熊大・九大・+1（東大）の問題を4月第2週までに解答する。 定期考査問題の教科内での検討会を意欲的に行う。 現状を多角的かつ的確に把握し、適切な対応を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業期間に合わせて、各教科で研究授業を実施することができた。 公開授業期間での授業見学や1学期末および2学期末に実施した授業改善アンケートの結果を受けて、授業力向上につなげることができた。 定期考査の問題検討会を実施し、作問力の向上につなげることができた。 定期考査や模試の結果を分析し、生徒たちにより具体的な指導を実施した。 熊本大学や九州大学等の入試問題を解き、大学入試や模試を想定し、それらを意識した授業をするように働きかけた。
キャリア教育・進路指導	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	第一志望現役合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の希望進路100%達成を目指す。 難関大学合格10人以上を含め、現役による国公立大学合格80人以上を目指す。 1・2年生、国・数・英で7・11月模試の偏差値50以上、1月偏差値52を目指す。 3年生の全科目において毎回の模試で偏差値50以上の度数が前年度を上回ることを目指す。 センター試験の得点が全科目全国平均点以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生では進路検討会を4回以上行い、担任が生徒にアドバイスを行う。 模試分析会を4回以上行う。 確認考査・単元テストなどの小テストを行う。 3年生総体総文後、数学の基礎講座及び英語の教科面談を行う。 9・11月のマーク模試において定点観測を行う。 小論文対策の早期化と継続を図る。また、天高100冊の選定を行う。 推薦・AO入試対策として、専門分野の強化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の検討会を実施して、時期に応じた指導へつなぐことが出来た。担任だけでなく、教科面など多方面から生徒への声かけが大切だと感じた。 模試毎に分析を行っているが、次の模試へその反省を生かし切れていない。学年内で情報の共有が終わってしまっているため、進路部会や教科会でも情報共有していきたい。 各教科での確認テストや教科面談等を実施し、基礎力定着への取り組みを行った。 マーク模試による総合点や各教科得点の度数分布による定点観測は行えた。教科内の弱点やその補強については教科任せになってしまった。全教科での情報共有を行いたい。来年度から、9月及び11月のマーク模試についての目標得点の設定を行いたい。 天高の100冊は発行することが出来たが、発行にとどまってしまう。使用の方法を提示できるようにしたい。 自分のやりたいことに対して、知識情報の収集とともに、きちんと表現できる力の必要性を感じる。 模試に関する数値目標を達成できたのは一部の教科のみであった。全学年全教科で達成が出来るよう、今後とも工夫をしていきたい。 概ね計画的に実行できた。生徒による発表を通じて、地域理解や職業理解が出来たと考える。 インターンシップについては、もっと参加者が増えるよう取り組むとともに、それに対応できる部内のシステムをつくらなければならない。
		総合的な学習の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> 自己の進路についての意識を高めさせる。 知の注入とともに、自分の考えを表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の計画に基づき、面談等で生徒の状況を確認しながら実施する。 討論会や調査内容の発表等の場を設ける。 インターンシップおよびキャリア教育を推進する。 	B	
		多様化する生徒の個々の進路目標への対応	進路意識の高揚・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、年間20回程度の進路情報を提供する。 各学年の進路講演会、大学出張講義、予備校や大学によるガイダンス、職業別講演会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路の手引き「求学志成」と、「進路ニュース」を作成する。 学年ごとに、時期・段階と生徒のニーズにあった内容で講演会を実施する。 受験形態を熟知し、生徒の個性にあった進学指導を実践する。 	B
生徒指導	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎月生徒朝会を実施する。 年間3回以上委員会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に運営させる。 職員が指導助言にあたる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して生徒会を中心に、挨拶運動、生徒朝礼を取り組むことができた。今後、挨拶運動では、生徒会執行部だけではなく、部活動や委員会にも参加を呼びかけていきたい。 定例の委員会活動を毎月実施し、活動を活発化することができた。 部活動では多くの生徒が活発に参加し、日頃の学校生活にもよい影響を与えている。 体育系部活動では、体育科と連携して部活動のリーダー研修会を毎学期毎に実施し、効果的な練習の工夫を促すことができた。 ボランティアについては、上級生になるにつれて参加が多くなっている。部活動との兼ね合いが難しく、職員の共通理解を深め、今後とも全生徒に推進していく。
		部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 加入率90%以上を目指す。 集中力を高め技能を向上させ上位入賞を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で加入を推奨し、勉強との両立を図るための指導を行う。 短時間で高い効果を生む練習の工夫を行う。 	C	
		ボランティア精神の育成	ボランティア活動の参加率60%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 外部のボランティアと連携し、生徒集会等で積極的に参加を促す。 		C

	基本的な生活習慣の確立	交通モラルとマナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回以上の登下校指導を行い、交通違反0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査前の指導は全職員で行う。校外指導も行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を全職員で5回実施できた。また、原付バイク通学生集会を毎月実施した。 外部講師を招いての講演会や、文化祭等での展示指導を行い、交通事故に対する知識や理解を深めることができた。 交通違反0を目指したが達成できなかった。 服装頭髪検査を年間8回実施した。基準の徹底を図り基準に基づいた生徒への対応と、全職員による指導の徹底を図ることができた。 各学年で、再検査0を目指し指導に当たったが、完全ではなかった。今後の目標とした。
人権教育の推進	生命の尊重に関する意識の高揚	いじめの根絶	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を把握し、迅速な対応を行い、いじめを根絶する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回程度いじめに関するアンケートを行う。 全職員が生徒情報を共有し、連携を密にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめアンケート」や「心のアンケート」の実施結果を有効に活用し、各学年や担任と連携し、実情を把握して迅速な指導に当たることができた。 日頃の担任による個人面談等を数多く実施し、少しでも心配のある生徒がいる場合は、即座に対応できる体制を整えている。 職員研修を2回実施し、自分自身を振り返り、人権感覚を磨くことができた。 1回目：6/20(金) 講演会 2回目：2/16(月) 事例研究及び班別協議 12/4(木)に人権教育講演会を実施、水俣病についての講演を通して、命の大切さ、これからの生き方について考えさせることができた。 スクールカウンセラーによる年間12回のカウンセリングを行い、生徒・保護者・教職員が受診した。また5回のカウンセリング委員会を実施した。協議内容を各学年に下ろし、生徒への指導に生かすことができた。不登校状態にあった生徒の多くが学校に復帰または前向きな進路変更を行うことができた。
	命を大切にしたい心身の育成	命を大切にしたい心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> 職員、生徒に「命を大切にしたい心」を育むことの重要性について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修並びに班別協議会を実施する。 全校集会やLHRにおいて、「命を大切にしたい心」について考えさせる。 	B	
	教育相談の充実	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回以上カウンセリング委員会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状を分析し、担任に指導助言を行う。 	B	
豊かな人間性の育成	読書の推進	読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> 貸出数の1人当たり14冊以上を目指す。 「朝の読書」を徹底させる。 利用率の増加（貸出数0冊の生徒を減らす。）を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 良書の選定と、「図書館便り」の充実及び年間10回以上の発行。 全職員、全生徒で一斉に行う。 多彩な分野の蔵書を揃え、生徒の情操や知的好奇心に訴えかける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路部発行「天高の100冊」を中心に、更なる新書の充実を計った。貸出数は生徒1人17冊（2/10現在）は県平均6.6冊を大きく上回っている。年10回の図書館便り及び年3回の掲示式読書案内を発行した。併せて日常的な掲示物更新や展示人替で、読書意欲喚起を行った。今後、朝の読書を学年等と連携して行うことで更なる充実を計る。 近隣校合同実施によりホール公演が可能となり、生徒の満足度も高かったことが伺われた。天草の歴史に関する演目を実施し、郷土理解及び知的興味関心の広がりに貢献した。今後も演目選定にあたっては内容等を多角的に検討し、高い満足度維持を図りたい。 性教育講演会や人権教育講演会等で「人間としての在り方生き方」に関して生徒・職員に考えさせることができた。
	人生観・職業観の育成	人生観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生き方や職業に関する講演会を開催する。 芸術鑑賞会の満足度アップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事とタイアップして同窓会、保護者、地域の方に講演をお願いする。 事後アンケートで満足度と次年度の鑑賞希望を調査する。 	B	
	道徳教育の推進	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標に基づき教育活動の全領域において道徳教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間としての在り方生き方」に関する講演会を開催する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 性教育講演会や人権教育講演会等で「人間としての在り方生き方」に関して生徒・職員に考えさせることができた。
健康安全教育の推進	健康・安全教育の推進と環境整備の推進	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 治療勧告生徒の受診率を向上させる。 生徒の健康状態に応じた個別指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前や定期考査前を目処に治療勧告書を渡し、治療の必要性を呼びかける。 健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の歯科治療率は44.5%であった。3年生の治療率が28%と低く、3年生に対しては夏休みまでの治療の徹底を呼びかけていく必要があった。 1月にインフルエンザの流行がみられたが、3年生は予防意識が高く受験を控えている生徒への罹患はほとんどなかった。1、2年生へも学校への目的を持たせ、予防行動の徹底を指導していく必要がある。 生活委員会が美化コンクールを主体的に運営するようになり、掃除に対する意識を高め年間を通して教室の環境美化を行うことができた。しかし、公共スペースの清掃ができていないこともあったため、学校全体の美化に関心を持つ取り組みを行っていききたい。 視覚的に分別を促すために写真等を活用して掲示した結果、分別はよくできている。しかし、学校外からの持ち込みゴミ（特に菓子類ゴミ）が増加しており、今後の課題である。 昨年度よりも、電気・水道使用量ともに減らすことができた。クラス減はしていないことから考えると成果だと言える。クラスでエアコンの電源を管理できるようになったことが原因かと思われる。 安全点検については計画通りに実施できた。事務の先生方のご指導で安全に学校生活を送ることができた。 校内の環境整備についても技師の先生、全職員、生徒達で年間をおして掃除を頑張り、周辺の整備に努めることができた。
	環境美化の徹底	環境美化の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 時間一杯清掃し、校内美化に努める。 ごみの分別を習慣化する。 学校版環境ISO活動（エコスクール）に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を立てて計画的に実施する。 全生徒が掃除に当たり、担当職員が率先垂範して指導にあたる。 分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により分別の習慣化を図る。 エコスクール推進委員会、生徒生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む。 	B	
	整備の徹底	整備の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に安全点検を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除用具の点検を定期的に行い、迅速に改善する。 安全点検を受けて、危険箇所の改善を迅速に行う。 	B	
いじめの防止等	指導体制の組織的整備	組織の実効的活用	<ul style="list-style-type: none"> 管理職を含む複数の教職員、専門的な知識を有する臨床心理士等による「いじめ対策委員会」の実効的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の作成・実行・検証・修正の中核的役割を果たす。 情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度よりいじめ防止対策委員会を発足させ、外部の専門的な知識を有する臨床心理士を招いて、年間3回の会議を実施することができた。 保護者への「子どものサイン発見チェックリスト」等も配布し、保護者との連携を取ることができた。
	いじめの防止	いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> 互いの良さや個性が大切にされ、一人ひとりが尊重さ 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の講話や講習会、LHRを有効に活用し、一人ひとりの心に迫る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育委員会と連携し、外部講師を招いての講演会等を実施することができた。

			れる人間関係や学校風土を構築する。		
未然防止及び早期発見のための取組みの強化	いじめの早期発見	・「いじめほどの学校にも起こりうる」という認識に基づき積極的に対応する。	・個別面談やアンケート等を定期的実施し、積極的な実態把握に努める。	B	・年間2回の生徒へのアンケートや、担任の個人面談等を積極的に行い、いじめ防止に役立てることができた。 ・生徒のいじめに対する大きな問題は起こらなかったが、クラスや部活動において、友人関係や人間関係で悩んでいる生徒が見られた。早急に学年や担任・家庭とも連携し解決している。
	いじめへの対応	・解決に向けて組織的に迅速な対応を行う。	・「対応マニュアル」に従い、情報収集と記録、確認を行い、組織的に迅速に解決する。		

4 学校関係者評価

2月18日に今年度2回目の学校評議員会を開催し、評議員の方々から今年度の取組及び生徒・保護者・職員へのアンケート結果等について意見等をいただいた。特に受験指導等、進路（教科指導）がシステムの機能し確実に生徒の力を伸ばすことができていることや、休日返上で一年間を通した先生方の熱心な取組に対して労いの言葉と3年生の模試の結果等、成績の向上に対してお褒めの言葉をいただいた。しかしながら、高校入試における出願者数においてはどうか定員を超えたものの、熊本市内への受検生の流出を食い止めるには至っておらず地域の中学校の生徒・保護者・教師に対してもっと天草高校の良さを積極的に広報すること等の意見もいただいた。地域の拠点校として文武両面において期待が大きいことしっかり受け止めなければならない。

5 総合評価

本校の教育活動については、年2回の学校評価アンケート結果や評議員の先生方の御意見からも概ね良好であるとの評価をいただくことができた。しかしながら、地域や中学校への情報発信や多様化している生徒への教科指導や進路指導のあり方については妥協なく積極的に改善していく必要がある。また、常に意識を高く取り組むようにしている不祥事防止については、不祥事ゼロ委員会を中心に職員研修を実施し、職員の意識の向上と遵守事項の確認に努めた。研修の内容としては、「情報管理」、「セクハラ・わいせつ行為」、「交通違反」、「薬物乱用」、「金銭トラブル・窃盗」、「飲酒運転」、「体罰・暴言」、「不適正経理」等について行った。また、職員の学校評価では「問題意識、危機管理意識は全員で共有されている」、「教育活動に関する共通理解や連帯感は確立されている」の評価は昨年同様、高いポイントで推移しており、問題意識の共有とその改善に向けた取組が見られた。進路保障については、生徒たちの学力の向上と進路希望の達成に向けて職員全員で取り組んできた。そのためには授業の充実が何よりも大切であることを認識し、そのための職員の力量アップとして、教科担当者での教材研究や教科での大学の入試問題の分析等に取り組んだ。進路状況については、過去最高であった昨年と比較し上位層が少なかったものの全体としてはほぼ同様の結果を残すことができた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 課題

- ア 地域進学重点校としてのさらなる進路実績の向上
- イ 文武両道のバランスのとれた高校生活の創造
- ウ 入学志願者増加のためのさらなる取組

(2) 改善策

- ア 文書セキュアの利用のさらなる促進と紙媒体の文書の整理整頓の徹底等。
機会あるごとに危機管理について言及し、職員の危機管理意識の向上に努める。
- イ 年度当初に授業担当者会を実施して、各教科等の取組を職員間で共有する。
教科指導力を高めるために大学入試問題を各教科で解き、分析会を設ける。
教材の研究を深め、魅力ある工夫された授業になるように努める。
学力の二極化を解消するためにフォローアップ講座や添削指導等に取り組む。
進路意識醸成のために新書等を読ませる取組を組織的に実施する。
部活動顧問と連携して学業との両立を実践する。
- ウ 中学校での説明会で、学校行事の充実振りをアピールし、天高生活の楽しさを伝える。
中学校へ毎月送付している「潮風」の内容の充実と年度当初の増刊号の発行。